

輪になって盛り、ガイド役のかけ声や身ぶり手ぶりに合わせて一緒に打楽器を奏でるドラムサークルが注目をされている。音楽経験は本間。ストレスを発散し、リズム感が養われ、協調性も身につくという。胸弾み楽しさを探った。

「ワン、ツー、スリー、はいっ」。森田孝一郎さん(40)(鹿児島市伊敷一)の指導が響きわたる。鹿児島市内で開かれた「ドラムサークルカブシマ」の演奏会。だれもが演奏に参加できる。

森田さんは「フアシリテーター」と呼ばれるガイド役。40人の参加者は森田さんを見て、思い思いにボンゴやジャンベ、アシココといったドラムをたいたたり、マラカスや鈴を揺ったり。譜面はないが、バラバラだった音が無事にリズム

経験不問のドラムサークル

輪
になって
鳴ら
うそ

を生み出して、く。「上手なか下手とかありません。失敗を恐れないで」。森田さんは呼びかけた。



森田さん(中央)の手ぶりに合わせ、打楽器をたたく参加者たち(鹿児島市で)

森田さんは会社員。アマチュアバンドのドラマーでもある。2005年、「ドラムサークルリリ宮崎」なるイベントの告知を見て、ゲストに「PEACE&LOVEベツカー」の名前を発見した。ドラムサークルについては知らなかったが、日本人パーカッション奏者のべ

ドラムサークル アメリカで1960、70年代に広まり、日本でも近年ほど前から知られてきた。ドラムサークルフアシリテーター協会によると、全国で定期的に活動しているのは約10団体。昨年、計約200回の演奏会が開かれ、延べ約5000人が参加。九州には鹿児島、宮崎、熊本県にグループがあり、3月には初の合同演奏会「九州ドラムキャンプ」が熊本県阿蘇市で開かれる。

ツカーさんは、日本のラテン音楽の草分け的存在だ。本人を見た一心で、宮崎市に車を走らせた。そこで体験したのは摩訶不思議な音楽。ベツカーさんの音調に合わせて、初対面同士が即興で、音楽を作ります。体中に電気が走った。「おれもやる」さっさと、音楽家仲間たちと「ドラムサークルカブシマ」を結成。数十万円かけて1800人分の打楽器を買い集め、ベツカーさんが理事長を務めるドラムサークルフアシリテーター協会(東京)で研修した。これまで県内で7回、演奏会を開いた。参加者から

初対面でも一体感 ストレス発散

は「介護で悩んでいたが、癒やされた」「子どもへの教育にいい」と好評だ。

鹿児島市の演奏会では記者も小型ドラム「フレイムドラム」をたいた。音楽は苦手な方だが、自分の出す音が周りと同化し、風に乗れる木々のさわめきにも聞こえ、心地よかった。初対面の参加者たちも、2時間の演奏会が終わるころには談笑するまでに。大学生豊山博樹さん(21)は「大勢の人と打楽器を演奏するのは最高」。ベツカーさんは「太鼓をたたくだけで友達になる。物騒な事件が多い時代、ドラムサークルで人間関係の風通しを良くしたいですね」と、森田さんが九州でドラムサークルを広めてくれることを期待している。問い合わせは森田さん(070・54482・1248)へ。